

# 市政総合アンケートについて

	設問の内容	分野	設問の狙い
問1	市政参加制度の認知度	市政参加	前回アンケート実施時（H22）からの経年変化を見る。
問2	市政参加した理由【新規】	市政参加	市政参加へのモチベーションの把握し、市政参加を促進するための材料とする。
問3	今後の市政参加への意欲	市政参加	何らかの課題を感じたときの市政参加への意欲について経年変化を見る。
問4	市政参加したくない理由	市政参加	市政参加したくない理由について経年変化や参加へのハードルを把握し、市政参加を促進するための材料とする。
問5	市政に対する市民の関わり方	市政参加	前回アンケート実施時（H22）からの経年変化を見る。
問6	市政参加を促すために市がすべきこと	市政参加	市政参加を促進するための市民ニーズを把握する。
問7	まちづくり活動の参加経験	まちづくり	まちづくり活動の実態について把握する。
問8	まちづくり活動における利用施設【新規】	まちづくり	まちづくり活動をしている方々が、どこで活動されているか実態を把握する。
問9	市のまちづくり支援制度の認知度【新規】	まちづくり	まちづくり活動をしている方々が、市の各種支援制度や取組をどの位ご存知か実態を把握する。
問10	まちづくり活動に参加しなかった理由【新規】	まちづくり	まちづくり活動に参加しなかった理由により、参加へのハードルを把握し、まちづくり活動の活性化のための材料とする。
問11	まちづくり活動の活性化のために市がすべきこと	まちづくり	まちづくり活動の活性化のための市民ニーズを把握する。
問12	市政情報を得る媒体	両方	前回からの経年変化や実態を把握し、効果的な広報に生かす。
問13	「対話」の取組について市が力を入れるべきこと【新規】	両方	協働のために必要な「対話」の取組について、市民ニーズを把握する。







原案(第2回会議時のもの:修正前)	修正案	設問の狙い／修正理由
<p>問6：市民の皆さんが市政により一層参加しやすくなるために、京都市がすべきことは何だと思えますか。次の中からあてはまるものを全てお選びください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 市政参加の情報をわかりやすく発信すること</li> <li>2 市政参加したい市民同士の交流の場を提供すること</li> <li>3 市政参加の取組の結果や施策・事業への反映をしっかりと伝えること</li> <li>4 政策づくり、計画策定など市政の様々な段階で多くの参加の機会をつくること</li> <li>5 市民に身近な課題についての参加機会を充実させること</li> <li>6 社会全体の課題や全市的な課題についての参加機会を充実させること</li> <li>7 子ども、大学生等若い世代にも参加の機会を増やし、市政を分かりやすく伝えること</li> <li>8 参加しやすい時間や場所に設定すること <ul style="list-style-type: none"> <li>* 参加しやすい時間帯を以下から選択してください。</li> <li>平日（午前中・午後・夕方・夜間）</li> <li>休日（午前中・午後・夕方・夜間）</li> </ul> </li> <li>9 インターネット、SNSなどを活用した意見聴取の機会を充実させるなど参加の敷居を下げること</li> <li>10 市職員が積極的に地域などに出向くこと</li> <li>11 その他（ ）</li> </ol>	<p>問6：市民の皆さんが市政により一層参加しやすくなるために、京都市がすべきことは何だと思えますか。次の中からあてはまるものを3つまでお選びください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 市政に関する情報をわかりやすく発信する</li> <li>2 市政参加したい市民同士の交流の場を提供する</li> <li>3 市政参加の取組の結果や施策・事業への反映をしっかりと伝える</li> <li>4 政策づくり、計画策定など市政の様々な段階で多くの参加の機会をつくる</li> <li>5 市民に身近な課題についての<u>市政への参加の機会</u>を充実させる</li> <li>6 社会全体の課題や全市的な課題についての参加機会を充実させる</li> <li>7 子ども、大学生等若い世代の方が<u>参加できる機会</u>を充実させる</li> <li>8 <u>市政への参加の仕組みのユニバーサルデザイン化を進める</u></li> <li>9 参加しやすい時間や場所に設定する <ul style="list-style-type: none"> <li>* 参加しやすい時間帯を以下から選択してください。</li> <li>平日(午前中・午後・夕方・夜間)</li> <li>休日(土日曜、祝日)（午前中・午後・夕方・夜間）</li> </ul> </li> <li>10 インターネット、SNSなどを活用して、<u>意見や提案ができる機会を充実させる</u></li> <li>11 その他（ ）</li> </ol>	<p>【設問の狙い】  ◎市政参加を促すために市がすべきこと  ⇒今後市民の市政参加を促進するうえでの市民ニーズを把握する。</p> <p>【原案からの修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択肢を重みづけするため、あてはまるものを3つまで選択させることにした（回答数を絞った）。</li> <li>・選択肢1「市政参加の情報」とはどのようなものを指すのか分かりにくいので「市政に関する情報」とした。</li> <li>・選択肢5「参加機会」では分かりにくいので「市政への参加の機会」とした。</li> <li>・選択肢7は「参加の機会を増やし、市政を分かりやすく伝える」と2つの内容が書かれているので、「参加できる機会を充実させる」と内容を1つに絞った。</li> <li>・選択肢8 心身の状態や、言語、家事、子育てといった市民一人ひとりの状況の違いを踏まえて、市政参加を進めるための取組を進めるという意味で、「市政への参加の仕組みのユニバーサルデザイン化」を選択肢として追加した。</li> <li>・選択肢9「休日」の定義を追加した。</li> <li>・選択肢10「参加の敷居を下げること」については、全ての選択肢に係る内容のため削除し「意見や提案ができる機会を充実させる」とした。</li> <li>・原案「市職員が積極的に地域などに出向くこと」が市政参加の制度との関わりが分かりにくいいため削除（問13の対話に関する設問で、市職員の関わりに関する選択肢を入れた）</li> </ul>



原案(第2回会議時のもの:修正前)	修正案	設問の狙い／修正理由
<p>問8：市内にはまちづくり活動をする際に利用したり、相談したりできる様々な施設があります。これまでにまちづくり活動のために、利用されたことのある施設について、次の中からあてはまるものを全てお選びください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 市役所（本庁）</li> <li>2 区役所・支所</li> <li>3 市民活動総合センター</li> <li>4 いきいき市民活動センター</li> <li>5 福祉ボランティアセンター</li> <li>6 景観・まちづくりセンター</li> <li>7 青少年活動センター</li> <li>8 キャンパスプラザ</li> <li>9 ウイングス京都</li> <li>10 国際交流会館</li> <li>11 その他の公共施設（ ）</li> <li>12 民間のレンタルスペースやコワーキングスペース、貸会議室等</li> <li>13 大学・学校等施設</li> <li>14 地域の集会所，公民館，自治会館，公園等</li> <li>15 お寺・神社等</li> <li>16 その他（ ）</li> <li>17 利用したことがない</li> </ol>	<p>問8：【問7で1～12と回答された方】 市内にはまちづくり活動をする際に利用したり，相談したりできる様々な施設があります。これまでにまちづくり活動のために、利用されたことのある施設について，次の中からあてはまるものを全てお選びください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 市役所（本庁）</li> <li>2 区役所・支所</li> <li>3 市民活動総合センター（<u>下京区河原町通五条下る東側 「ひと・まち交流館 京都」内</u>）</li> <li>4 いきいき市民活動センター（<u>市内13か所</u>）</li> <li>5 福祉ボランティアセンター（<u>下京区河原町通五条下る東側 「ひと・まち交流館 京都」内</u>）</li> <li>6 景観・まちづくりセンター（<u>下京区河原町通五条下る東側 「ひと・まち交流館 京都」内</u>）</li> <li>7 青少年活動センター（<u>市内7か所</u>）</li> <li>8 キャンパスプラザ京都（<u>下京区西洞院通塩小路下る</u>）</li> <li>9 ウィイングス京都（<u>中京区東洞院通六角下る</u>）</li> <li>10 国際交流会館（<u>左京区栗田口鳥居町</u>）</li> <li>11 小学校・中学校</li> <li>12 大学・高校等施設</li> <li>13 地域の集会所，公民館，自治会館等</li> <li>14 その他の公共施設（ ）</li> <li>15 お寺・神社等</li> <li>16 民間のレンタルスペース等</li> <li>17 その他（ ）</li> </ol>	<p>【設問の狙い】 ◎まちづくり活動における利用施設＜★新規＞ ⇒市民のまちづくり活動の実態を把握する。特に「活動をしている人たちは，どこに集まるのか（活動拠点はどこか）」という観点で状況把握することを目的とする。</p> <p>【原案からの修正】 ・まちづくり活動における活動場所の把握のため，問7で「活動したことがある」と回答した方が回答するよう明確に記述した。 ・各施設がどこにあるかという情報を追加した。 ・選択肢11は，「小学校や中学校は，地域活動の拠点となりやすい」との学識者からの意見を参考に，選択肢を追加した。 ・「民間のレンタルスペース等より学校，地域の集会所等の方が活動拠点となりやすい」との学識者からの意見を参考に，順を入れ替えた。</p>

原案(第2回会議時のもの:修正前)	修正案	設問の狙い／修正理由
<p>問9：京都市では市民のまちづくり活動の支援のために様々な事業（制度）を用意しています。以下に挙げた制度について、利用されたことがあるか、またご存知かについて、事業ごとに当てはまるものを1つずつお選びください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 まちづくり提案支援事業</li> <li>2 まちづくりカフェ等交流事業</li> <li>3 地域コミュニティ活性化に向けた地域活動支援制度</li> <li>4 地域コミュニティサポートセンター</li> <li>5 地域団体とNPO法人の連携促進事業</li> <li>6 市政出前トーク</li> <li>7 “みんなごと”のまちづくり推進事業（お宝バンク、市民サポーター派遣、活動進化プログラム、つながり促進プログラム等）</li> <li>8 輝く学生応援プロジェクト</li> <li>9 学まちコラボ事業</li> </ol>	<p>問9：【問7で1～12と回答された方】 京都市では、<u>まちづくり活動に取り組む皆さんに、活動のきっかけづくりや、活動される人々が出会い、つながり、連携・協働するための支援、地域コミュニティの活動支援など様々な取組を行っています。</u>以下に挙げた事業について、参加もしくは利用されたことがあるか、またご存知かについて、事業ごとに当てはまるものを1つずつお選びください。</p> <p>○<u>活動のきっかけづくり、交流・連携、活動サポート</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 市政出前トーク</li> <li>2 各区・支所のまちづくりカフェ等交流事業</li> <li>3 各区・支所のまちづくり提案支援事業</li> <li>4 “みんなごと”のまちづくり推進事業（お宝バンク、市民サポーター派遣、活動進化プログラム（公開講座、交流会等）</li> </ol> <p>○<u>地域コミュニティの活動支援</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 地域コミュニティ活性化に向けた地域活動支援制度</li> <li>6 地域コミュニティサポートセンター</li> <li>7 地域団体とNPO法人の連携促進事業</li> </ol> <p>○<u>学生のまちづくり活動への参画</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8 輝く学生応援プロジェクト</li> <li>9 学まちコラボ事業</li> </ol>	<p>【設問の狙い】 ◎市が行っている支援や取組の認知度＜★新規＞ ⇒市民のまちづくり活動の実態を把握する。特に、「自主的にまちづくり活動を行っている方々が、市が用意している各種支援や取組をどれだけ知っているのか」という観点で状況把握することを目的とする。 ・各種支援や取組を列挙し、知らなかった支援制度や取組について知っていただく。</p> <p>【原案からの修正】 ・まちづくり活動をしている人の各種支援の認知度を確認するため、問7で「活動したことがある」と回答した方が回答するよう設問の設定を変更した。 ・市の各種支援や取組をわかりやすく示すため、見出しを追加した。</p>

原案(第2回会議時のもの:修正前)	修正案	設問の狙い/修正理由
<p>問10: まちづくり活動に参加する際に課題となること、あるいは活動をしない理由は何ですか。次の中から3つまでお選びください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 参加のきっかけ,方法がわからない,わかりにくい</li> <li>2 参加する時間がない, 合わない</li> <li>3 自分のための活動(趣味, 休養, 習い事等)に時間を使いたい</li> <li>4 一緒に参加する仲間がいない, 少ない</li> <li>5 活動の場の敷居が高い</li> <li>6 精神的, 肉体的に負担がかかる</li> <li>7 内容が難しい</li> <li>8 魅力ややりがいを感じられる活動がない</li> <li>9 まちづくりに興味がない・気が進まない</li> <li>10 活動に伴う人付き合い, 人間関係に不安がある</li> <li>11 経済的な余裕がない</li> <li>12 その他( )</li> </ol>	<p>問10: <u>【問7で13と回答された方】</u>  <u>あなたがまちづくり活動をされなかった理由は何ですか。</u>次の中からあてはまるものを3つまでお選びください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 参加のきっかけ,方法がわからない,わかりにくい</li> <li>2 参加する時間がない, 合わない</li> <li>3 一緒に参加する仲間がいない, 少ない</li> <li>4 活動の場の敷居が高い</li> <li>5 <u>肉体的に負担</u>がかかる</li> <li>6 活動に伴う人付き合い, 人間関係に不安がある</li> <li>7 経済的な余裕がない</li> <li>8 内容が難しい</li> <li>9 魅力ややりがいを感じられる活動がない</li> <li>10 まちづくりに興味がない・気が進まない</li> <li>11 その他( )</li> </ol>	<p><b>【設問の狙い】</b>  ◎まちづくり活動をしなかった理由 &lt;★新規&gt;  ⇒市民がまちづくりに参加する際(まちづくり活動をやってみたいと思った際)ハードルとなるものを把握。</p> <p><b>【修正理由】</b>  ・原案の「課題となること」と「活動をしない理由」については別のものであるため「活動をしなかった理由」を尋ねる設問として、問7で「参加したことがない」と回答した方が回答するよう変更した。  ・原案の「『自分のための活動に時間を使いたい』という選択肢は『参加する時間がない』に含まれる」との学識者の意見を踏まえ、選択肢を削除。  ・原案の「精神的, 肉体的に負担」のうち, 精神的な負担は別の選択肢で読めるため「肉体的な負担」を選択肢5とした。選択肢の順は, 似たものをまとめ入替え。</p>
<p>問11: 今後さらにまちづくり活動を活性化させるために京都市が行う取組として, あなたはどのようなことが大切だと思いますか。大切だと思うものについて, 次の中からあてはまるものを全てお選びください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 活動に役立つ情報の提供を推進する</li> <li>2 組織運営に関する相談事業を推進する</li> <li>3 人的な補助(アドバイザー, コーディネーター派遣等)の取組を推進する</li> <li>4 活動の拠点となる場所を増やす</li> <li>5 活動への理解や参加を促すための広報を推進する</li> <li>6 活動に必要な財政上の支援を推進する</li> <li>7 活動を支える人材の育成を推進する</li> <li>8 「行政」(職員)と「まちづくり活動」主体(個人・団体)との連携・協働を推進する</li> <li>9 「まちづくり活動」主体(個人・団体)同士の連携・協働・交流等の支援を推進する</li> <li>10 その他( )</li> </ol>	<p>問11: 今後さらにまちづくり活動を活性化させるために京都市が行う取組として, あなたはどのようなことが大切だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまでお選びください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 活動に役立つ情報の提供を推進する</li> <li>2 組織運営に関する相談事業を推進する</li> <li>3 人的な補助(アドバイザー, コーディネーター派遣等)の取組を推進する</li> <li>4 活動の拠点となる場所を増やす</li> <li>5 活動への理解や参加を促すための広報を推進する</li> <li>6 活動に必要な財政上の支援を推進する</li> <li>7 活動を支える人材の育成を推進する</li> <li>8 <u>市職員とまちづくり活動を行う方(個人・団体)</u>との連携・協働を推進する。</li> <li>9 <u>まちづくり活動を行う方(個人・団体)</u>同士の連携・協働を推進する</li> <li>10 その他( )</li> </ol>	<p><b>【設問の狙い】</b>  ◎市民のまちづくり活動への参加を促すために市がすべきこと  ⇒今後市民のまちづくり活動への参加を促進するうえでの市民ニーズを把握する。</p> <p><b>【修正理由】</b>  ・選択肢を重みづけするため, あてはまるものを3つまで選択させることにした(回答数を絞った)。  ・「行政」, 「まちづくり活動」主体という言い方をわかりやすくするため「市職員」, 「まちづくり活動を行う方」という文言に修正した。</p>

原案(第2回会議時のもの:修正前)	修正案	設問の狙い/修正理由
<p>問12：京都市では、市政参加やまちづくり活動の情報を色々な媒体で発信しています。あなたがこれまで、市政参加やまちづくり活動などの市政情報をどこで得たり、見聞きしたりしましたか。得た媒体、見聞きすることが多い媒体を次の中から3つまでをお選びください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 市民しんぶん</li> <li>2 京都市ホームページ（「京都市情報館」）</li> <li>3 京都市の市政参加とまちづくりポータルサイト（「みんなでつくる京都」）</li> <li>4 その他の京都市の各所管課等が発信する公式SNS、ポータルサイト等</li> <li>5 市広報板</li> <li>6 区役所等の窓口、公共施設の配架チラシ等</li> <li>7 市バス・地下鉄のポスター等の掲示物</li> <li>8 ラジオ・テレビでの市広報番組</li> <li>9 自治会・町内会の会合やニュース（回覧板含む）</li> <li>10 新聞</li> <li>11 ラジオ・テレビ（市広報番組以外）</li> <li>12 インターネット（京都市以外のホームページ、SNSなど）</li> <li>13 知り合いからの口コミ情報、SNS</li> <li>14 その他（ ）</li> </ol>	<p>問12：京都市では、市政参加やまちづくり活動の情報を色々な媒体で発信しています。あなたがこれまで、市政参加やまちづくり活動の情報を得たり、見聞きした媒体で、頻度の多いものを3つまでお選びください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 市民しんぶん</li> <li>2 京都市の公式ホームページ（「京都市情報館」、<u>「みんなでつくる京都」</u>など）、公式SNS（Twitter、Facebook、LINE）</li> <li>3 市政広報板</li> <li>4 区役所等の窓口、公共施設の配架チラシ等</li> <li>5 市バス・地下鉄のポスター等の掲示物</li> <li>6 ラジオ・テレビでの市広報番組</li> <li>7 自治会・町内会の会合やニュース（回覧板含む）</li> <li>8 新聞</li> <li>9 ラジオ・テレビ（市広報番組以外）</li> <li>10 インターネット（京都市以外が運営するホームページ、SNSなど）</li> <li>11 知り合いからの口コミ情報、<u>知人が発信するSNS</u></li> <li>12 その他（ ）</li> <li>13 <u>見聞きしたものはない</u></li> </ol>	<p><b>【設問の狙い】</b>  ◎市民が市政情報を受け取る媒体は何か  ⇒前回アンケート実施時（H22）からの経年変化を確認する。  ・今後の市民の市政参加、市民のまちづくり活動への参加を促進するうえで、効果的な広報媒体を把握する。</p> <p><b>【原案からの修正】</b>  ・京都市の公式ホームページ、ポータルサイト、公式SNSについては、選択肢を1つにまとめた。  ・選択肢11は、選択肢10との違いをより明確にするため、「知人が発信するSNS」と記載した。  ・市政情報を見聞きしたことがない、ということも考えられるため選択肢13を追加した。</p>

原案(第2回会議時のもの:修正前)	修正案	設問の狙い／修正理由
<p>問13：京都市では、市職員と市民、市民と市民が、市政やまちの課題について直接対話する取組の推進を進めています。また、「みんなごと」のまちづくり事業等を通じて、協働のまちづくりを支援する取組を進めています。これらの取組について、今後京都市が進めるべきであると思う取組について、次の中からあてはまるものを全てお選びください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 行政と市民の対話の場をさらに増やす取組</li> <li>2 市民同士の対話の場をさらに増やす取組</li> <li>3 対話の場に関する情報の発信、PR</li> <li>4 対話できる市職員の育成</li> <li>5 まちづくり活動に関する情報の発信、PR</li> <li>6 まちづくりに興味がある市民の交流の場を増やす取組</li> <li>7 市職員がまちづくりの現場に積極的に参加する取組</li> <li>8 推進しなくてよい</li> <li>9 わからない</li> </ol>	<p>問13：京都市では、<u>市民の皆さんと共に、知恵と能力を結集して解決を考えていく「協働のまちづくり」の実現のため、多様な市民（個人、企業、NPO、各種団体、大学、寺社等）と行政が対等な立場で一緒に話し合い、考える「対話」の取組を推進しています。「対話」の取組について、京都市がこれから力を入れて進めるべきと思うことについて、次の中から<u>当てはまるものを3つまでお選びください。</u></u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 <u>市民が「協働のまちづくり」や「対話」について学ぶことができる機会を増やす（講座、ワークショップなど）</u></li> <li>2 <u>市政やまちづくりについて、多様な市民が交流し、話し合える機会を増やす（まちづくりカフェ、交流会など）</u></li> <li>3 <u>市政やまちづくりについて、多様な市民が交流し、話し合える機会に市職員が積極的に参加する</u></li> <li>4 <u>市政やまちづくりについて、多様な市民の連携を促進する「対話」の能力を持った職員を育成する</u></li> <li>5 <u>対話の取組を積極的にPRし、開催場所等を分かりやすく発信する</u></li> <li>6 特に推進しなくてもよい</li> <li>7 よく分からない</li> </ol>	<p>【設問の狙い】  ◎「対話」の取組について、市が力を入れるべきこと  &lt;★新規&gt;  ⇒現計画で重要施策に挙げている「対話」の取組について、市民意識やニーズを把握する。</p> <p>【原案からの修正】  ・原案では、協働のまちづくりの取組全般に関しての設問としていたが、「対話」に関する設問としてより明確にした。  ・「対話」の説明を追加した。  ・「市民が学ぶ場」、「市民が交流する場」、「市職員が対話の場に積極的に参加する」、「市民の連携を促進する能力をもった市職員の育成」、「対話の取組の積極的なPR」という内容で選択肢を設けた。  ・選択肢を重みづけするため、あてはまるものを3つまで選択させることにした（回答数を絞った）。</p>
<p>問14：（自由記述）</p>	<p>問14：（自由記述）</p>	<p>【設問の狙い】  ◎その他の自由な市民意見の把握</p>

原案(第2回会議時のもの:修正前)	修正案	設問の狙い/修正理由
<p>問15：最後にあなた自身のことについてお尋ねします。次の(ア)～(エ)の各項目について、それぞれいずれか1つをお選びください。</p> <p>(ア) 性別 1 男 2 女 3 ( )</p> <p>(イ) 年齢 1 18～29歳 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代 5 60歳代 6 70歳以上</p> <p>(ウ) 居住地 1 北区 2 上京区 3 左京区 4 中京区 5 東山区 6 山科区 7 下京区 8 南区 9 右京区 10 西京区 11 伏見区</p> <p>(エ) 職業 1 自営業・自由業 2 会社員・公務員など給与所得者 3 主婦・主夫 4 学生 5 無職 6 その他</p>	<p>問15：最後にあなた自身のことについてお尋ねします。次の(ア)～(エ)の各項目について、それぞれいずれか1つをお選びください。</p> <p>(ア) 性別 1 男 2 女 3 ( )</p> <p>(イ) 年齢 1 18～29歳 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代 5 60歳代 6 70歳以上</p> <p>(ウ) 居住地 1 北区 2 上京区 3 左京区 4 中京区 5 東山区 6 山科区 7 下京区 8 南区 9 右京区 10 西京区 11 伏見区</p> <p>(エ) 職業 1 自営業・自由業 2 <u>給与所得者</u> 3 主婦・主夫 4 学生 5 無職 6 その他</p>	<p><b>【設問の狙い】</b> ◎回答者の属性</p> <p><b>【原案からの修正】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性別については、京都市共生社会推進室が発行している「多様な性に関するハンドブック」の取組例に倣い「(自由記述)」のままとする。</li> <li>・「公務員・会社員など」と例示があることにより、回答者が回答しにくくなる恐れがあることから、単に「給与所得者」とした。</li> <li>・今回のアンケートでは、市内在住者に広く市民参加について伺うもので、国籍による分析は行わないため国籍はお聞きしない。(ユニバーサルデザインについては問6)</li> </ul>